



星総合病院 手術

手術は乳腺外科の主たる業務の最たるものです。当院では乳がんの手術は年間約250例近く行っていますが、乳がん以外にも手術適応になる疾患として、乳腺葉状腫瘍、乳管内乳頭腫や線維腺腫や脂肪腫などの乳腺良性腫瘍、授乳期乳腺炎などがあります。乳がんの手術は30～40年前まではいわゆる定型的乳房切断術（のちに切除術に用語変更になった）でした。1800年代後半にウィリアム・スチュアート・ハルステッドにより考案された術式で、約1世紀にわたり全世界で広く行われた術式です。乳房・大胸筋・腋窩鎖骨下リンパ節を一塊に切除するので、それまでの術式に比較し局所再発を少なくした優れた術式でしたが、肋骨が浮き出て見える、患側上肢浮腫が多いなどの欠点もありました。その後、大胸筋を切除しない胸筋温存乳房切除術（ペイティやオッキンクロス法）そして乳房温存手術と変遷してきました。現在では大胸筋を切除する術式はほぼ皆無、胸筋温存乳房切除術（乳房全切除＝いわゆる全摘）と乳房温存手術（乳房部分切除＝いわゆる温存）が半々といったところです。腋窩リンパ節の処理に関しても、腋窩鎖骨下リンパ節郭清から腋窩郭清、さらにセンチネルリンパ節生検と縮小化が進み、センチネルリンパ節に転移があっても郭清省略を勧めるケースも出てきました。手術の縮小化には放射線治療が大いに役立っています。乳房全切除後の再建手術は当院では形成外科が担当しています。線維腺腫や脂肪腫などの良性腫瘍はかなり大きいものに限って摘出をすることが多くなっています。葉状腫瘍は病理学的に悪性・境界・良性と分けられますが、良性葉状腫瘍でも急速に大きくなったり摘出しても再発が多いなど臨床的には悪性の所見を呈します。したがって乳がんではないにもかかわらず乳房全切除が必要になる場合もしばしばです。乳管内乳頭腫は血性乳頭分泌の症状を呈することが多く、乳管内乳がんとの鑑別が難しいこともあって診断的治療を兼ねて選択的乳管腺葉区域切除や腫瘤切除が行われることがあります。最近では数は少なくなりましたが授乳期の急性乳腺炎で産科の診療所からの依頼で切開排膿が必要になるケースもあります。また乳がんの手術に次いで多いものは、静脈ポート造設です。周術期の化学療法（抗癌剤治療・分子標的治療・免疫チェックポイント阻害薬）や進行再発乳がんの化学療法の投与ルート確保のため、ほぼ全例で経静脈ルートで局麻下に静脈ポートを造設しています。乳腺外来も毎日診療しているので、外来担当以外のメンバーで毎日手術を実施しています。（文責：野水 整）

2023年の発表論文

- 1) 加瀬晃志、長塚美樹、岡野舞子、松寄正實、片方直人、野水 整：乳癌を発症したCowden症候群の1例 日臨外会誌 2023;84(1):24-28
- 2) 野水 整、上尾裕昭、加藤 誠、福岡英祐：頭皮冷却装置RV21-01を用いた乳癌の薬物療法誘発性脱毛抑制に関する有効性と安全性について 癌と化学療法 2023;50(3):321-325
- 3) 長塚美樹、松寄正實、片方直人、勝部暢介、野水 整：遺伝性乳癌卵巣癌（HBOC）に対するBRCA遺伝学的検査の有病・病診連携 遺伝性腫瘍 2023;23(1):22-26
- 4) 勝部暢介、佐治重衡、岡野舞子、石野 淳、高橋昌一、後藤政広、牛尼美年子、菅野康吉、吉田輝彦、野水 整：血管肉腫の同胞発症がみられた1家系 遺伝性腫瘍 2023;22(4):106-111

治療実績 乳がん検診受診者数（12月）

郡山市乳がん検診	103件
郡山市を除く自治体乳がん検診	26件
ドッグ職域健診を含む任意型健診	143件

乳腺外来新患者数（12月）

乳腺新患者様	63件
（紹介の患者様）	36件
（2次検査の患者様）	25件
（乳がんの患者様）	24件

手術数

12月 乳房全切除	13件
1月～11月合計	163件
12月乳房部分切除	9件
1月～11月合計	77件
1月～12月合計	262件

乳腺外来担当表（新患・紹介・2次検診のみ）

	午前	午後
月	—	片方
火	野水・片方・長塚	野水・松寄・長塚
水	野水・松寄	—
木	片方・南	—
金	野水・南・松寄	片方



スタッフ紹介

おおこうち ちよ

大河内 千代

郡山市出身

外科医員、2001年医師免許

福島県立医科大学医学部第二外科で外科の修練を受ける、同甲状腺学講座で甲状腺診療の修練を受ける。

乳腺外科医



星総合病院

発行月 2024年2月

